

若江蕙子、わかえ漢學者、歌人。天保六年京都生れ、明治十四年十月十日歿（二八五―八二）。父は修理大夫おしん量長（一説に皇族の落胤と養女として下されし）。通稱文。號秋蕙、菅原のかほる子、菅原朝は蕙子、菅原蕙子、袖蘭、平尾勝四郎。少時より學ぶ秀れ、四書五經全部を手寫して暗誦せき、十八歳の折には文天祥の「指南集釋義」を作りて當代の漢學者を驚歎せしめたといふ。巖垣月洲の師事したが、和歌の師は不明。慶應二年一條忠香の女 壽榮君（昭憲皇太后）の入内内定と共に侍讀となり、和歌、漢籍、諸禮式等を講じた。平生西洋化の時勢に慷慨して攘夷論を唱へ、數度反り建白書、請願書と呈出したため、明治二年宮中出入り停止を命ぜられた。その後讀故に至り、不過のうちに歿した。

「和歌女四書」、「杞憂濁語」等を著し、詩歌その他の文稿と共に『若江蕙子と其遺著』（菅原竹軒編、大正六年十二月十日香川・香川新報社）に収録。他に、若江秋蘭原譯・大田秀雄新譯『和歌女四書』（大正二年五月二十日榮文館書店）がある。

